

<b>水稻跡作小麦における「容積重」向上のための追肥方法と収穫時期</b>			
<b>【要約】</b> 「容積重」は、「農林61号」、「ふくさやか」とともに出穂後10日追肥施用により向上するが、成熟期以降の日数経過とともに低下するため、「容積重」の品質評価基準達成のためには、出穂後の追肥と適期収穫とを組み合わせることが重要である。			
農業技術振興センター 栽培研究部 作物担当		<b>【実施期間】</b> 平成19年度	
<b>【部会】</b> 農産	<b>【分野】</b> 高品質化技術	<b>【予算区分】</b> 県単	<b>【成果分類】</b> 指導

### 【背景・ねらい】

実需者の求める高品質な小麦生産のため、「たんぱく」、「灰分」、「容積重」、「フォーリングナンバー」の4評価項目の基準値が設定され、この基準を満たす高品質小麦の安定生産が課題となっている。なかでも「容積重」については、収穫・乾燥・調製技術の影響を受けやすいとされているため、水稻跡作において刈り取り時期の影響を検討する。

### 【成果の内容・特徴】

「容積重」は、出穂後10日追肥を4 kg N / 10 a 施用することにより向上する(図1、図2)。「容積重」は、「ふくさやか」、「農林61号」とともに遅刈りほど低下する傾向がみられる(図3)。

成熟期以降の降雨が「容積重」に及ぼす影響は判然としない(図3)。

以上のことから、小麦の「容積重」を向上させるためには、出穂後10日追肥施用と適期収穫とを組み合わせることが重要である。

### 【成果の活用面・留意点】

2006年11月1日播種のセンター内試験ほ場において、基肥 - 追肥1(12/下) - 追肥2(3/上) - 追肥3(出穂後10日)の施肥体系で、標準施肥量を「ふくさやか」は4 - 2 - 4 - 4 kg N / 10 a、「農林61号」は6 - 2 - 2 - 4 kg N / 10 a として調査した結果である。

「容積重」は粒厚2.0mm以上に選別後測定した。

「容積重」の向上には、土壌pH調整、排水性確保等の基本技術により、麦の生育を健全にすることが最も大切である。また、収穫・乾燥・調製方法の影響も大きいため、粒厚選別、比重選別等により丁寧な調製を行う。

穀粒水分30%以下の目安を参考に、適期刈り取りを行う。

## [ 具体的データ ]

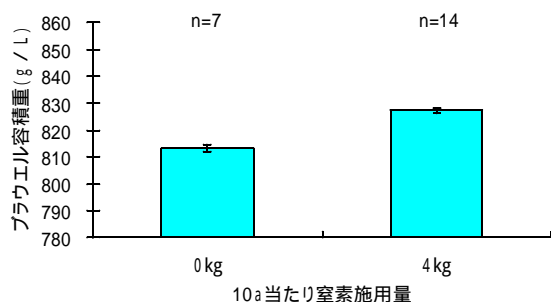


図1 出穂後10日追肥施用量と容積重(ふくさやか)  
エラーバーは標準誤差を示す。

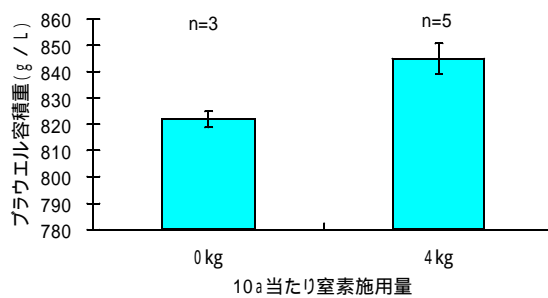


図2 出穂後10日追肥施用量と容積重(農林61号)  
エラーバーは標準誤差を示す。

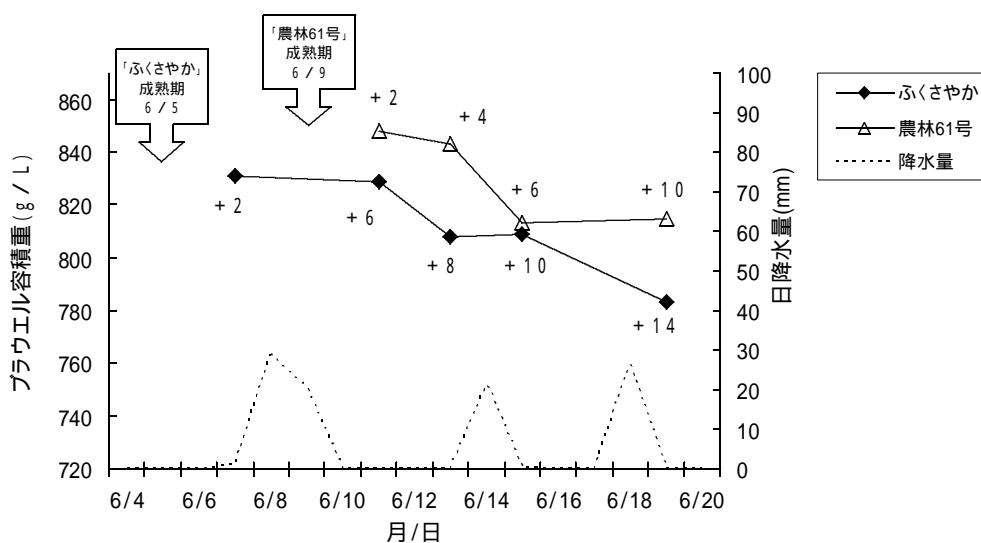


図3 刈り取り時期と容積重の関係

図中の+付き数字は成熟期後日数

## [ その他 ]

### ・ 研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：水稻・麦類・大豆品種改良および栽培試験

小麦の品質評価基準に対応した高品質安定生産技術の確立

### ・ 研究担当者名

鳥塚智 (H18~19)、吉岡ゆう (H19)

### ・ その他特記事項

平成17年度要請課題 (東近江地域振興局)